

第 1 回魅力発信部会の内容（要旨）

1 説明報告内容

(1) 「リニア駅周辺整備基本構想」における魅力発信施設の位置づけの確認

①以下の上位関連計画を踏まえて「リニア駅周辺整備基本構想」を策定していることを確認

- ・長野県：リニア活用基本構想
- ・伊那谷：リニアバレー構想（骨子）
- ・飯伊地域：リニア将来ビジョン
- ・飯田市：飯田市基本構想後期基本計画、リニア推進ロードマップ、土地利用基本方針等

②「魅力発信施設」が、「リニア駅周辺整備基本構想」の基本方針 1 の取り組みとして位置づけられていること、及びその内容について説明

(2) トランジットハブ・道路ネットワーク部会の検討状況についての報告

①「リニア駅周辺整備基本構想」における駅周辺整備のイメージについて説明

- ・北側は広域交通機能を中心に位置づけ
- ・南側は地域公共交通を中心に位置づけ

②リニア駅周辺整備を検討するエリア（整備予定区域）の確認

③地形的条件と技術的条件（コントロールポイントの説明）

- ・北から南、西から東へかけて、最高 15m 程度の標高差
- ・国道 153 号及び座光寺上郷道路の整備予定
- ・信号間距離、直角交差等の技術的条件

④以上①～③等を踏まえ、エリア的に制限を受ける中での計画とならざるを得ないことの説明

2 主な意見

- ・観光（広域観光）に関しては、様々な情報を一元的に把握できるような、わかりやすくかつワンストップで案内できる機能が必要。
- ・魅力を体感できるイベント広場的な機能が必要。銀座 NAGANO のように施設を効率的に利用し、イベントもできる発信力のある機能を備えるべき。
- ・整備予定区域では地形的・技術的制約条件の影響を受けることも踏まえる中で、魅力発信施設に期待される多様な機能を実現できるような検討が必要。
- ・駅にとって重要な機能である交通広場以外の面積が、どの程度確保されるかは現時点では不明ではあるが、他の部会の検討状況を踏まえつつ検討していくのが良い。
- ・インターネットでは得ることのできない、触れたり、食べたりといった体験を伴う現地ならではのガイド機能の視点も必要。
- ・地元の良さを外の人に理解してもらうには、ソフト的な取り組みとして、パンフや映像音声案内のみでなく、人を介在させるコンシェルジュ機能も必要であり、体験を通じた地域住民とのふれあいにつながるようなしくみづくりが大切。
- ・インバウンドへの取り組みに関しても十分な対応が必要。
- ・二つのアルプスを資源として活用すべき。
- ・空港のラウンジのような、ゆったりとした空間があってもよい。
- ・農業に関しては、道の駅のような機能との連動とともに、農産物をイベント的に販売するようなイベントスペースがあっても良い。
- ・二地域居住や定住・移住、就農に関しての案内や相談機能があると良い。
- ・起業したい人へのヒントとなるような機能も駅の近くにあると良い。
- ・発信ばかりではなく、来訪者から受信する双方向の機能があると良い。
- ・この地域の産業を PR できる施設があると良い。
- ・商業に関しては、幅広くこの地域（上伊那、下伊那、木曾）を発信できることを考えてほしい。